

令和2年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 17

主要事業名	オリンピック開催に向けた社会教育活動の推進					作成日	R3.5.21
						担当課名	中央公民館
						担当者名	増田 由紀子
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	年度繰返し	○	期間限定	令和元年度から	令和3年度	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	4	市民と共に創るまちづくり	
体系項目	(1)	社会教育の充実と多様で主体的な生涯学習活動の推進		基本政策	9	地域が結び笑顔あるれるまち	
個別施策	①	学習に取り組める場と学習機会の充実		基本施策	2	コミュニティ活動の活性化	
根拠法令等							

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、東京2020大会は1年延期され、令和3年の開催が決定しました。また、鹿嶋のPRにも役立つことが見込まれる、鹿嶋市郷土かるたが令和2年度に作成されました。コロナ禍の中で、令和元年度の実行委員会で熟議したオリンピックおもてなし事業、機運醸成事業の活動内容を実施していくことは困難な状況であると判断し、鹿嶋の芸術・文化、歴史・伝統などが同時に楽しめる展示中心のイベントを開催。
目的（事業の目指すところ）	オリンピック開催が1年延期されたことを前向きに捉え、様々な市民活動がより活性化されるための充電期間として、更なる活動のステップアップを図り、新型コロナウイルスと共生していかなければならない社会においても、人々が輝き、楽しみ、つながり、喜びと充実感を分かち合える活力あふれるまちづくりをめざし、芸術や文化、伝統をテーマに、あらためて鹿嶋市の魅力を再確認し情報発信していくことを目的としています。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・2020 KASHIMA文化交際フェスティバルの開催（市美展、郷土かるた展、郷土の伝統芸能展など） ・KASHIMAポストカードデザインコンテストの開催及びポストカードの作成 ・各地区公民館オリパラブースの設置
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p>【オリンピック開催と社会教育活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあります。 ・東京2020オリンピック競技大会を活用し、社会教育活動の活性化にリンクさせ、地域にどのようなレガシーを残すことができるのか、そのレガシーを実現するためにはどのような課題があるのかなど、学びを通じた新たなまちづくりに取り組む絶好の機会としています。

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R2年度 (実績)	R3年度 (予定・見込)	R4年度 (予定・見込)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)
		KASHIMA文化交流フェスティバルの開催	人	1,600 (9日間)	2,500 (14日間)	—	—
	KASHIMAポストカードデザインコンテストの実施とポストカードの作成	点	52	—	—	—	—

投入コスト	全体計画		R2年度 (決算額：千円)	R3年度 (予算額：千円)	R4年度 (計画額：千円)	R5年度 (計画額：千円)	R6年度 (計画額：千円)
	事業経費	文化交流フェスティバル	500	2,668	0	0	0
	KASHIMAポストカードデザインコンテスト	1,000	0	0	0	0	
	地区オリンピック機運醸成事業（10館分）	700	0	0	0	0	
	合計	2,200	2,668	0	0	0	
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源	2,200	2,668	0	0	0	
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	5	5	5	5	5	
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）	5	4	4	4	4	

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけ成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①-2020 KASHIMA文化交流フェスティバルの開催 【比率: 50%】	各市民活動団体及び地区まちづくり委員会等と連携して、芸術や文化、伝統をテーマに、鹿嶋市の魅力を再確認し、そしてより多くの方々に知っていただくための取り組みを進める。	2020 KASHIMA文化交流フェスティバル ～魅力あふれるかしま展～の開催。	①鹿嶋市美術展覧会 会員特別展 ②郷土かるた・伝統文化展・伝統芸能・郷土展 ③なまず絵展 ④平成の大直刀展示 ⑤鹿嶋市文化協会 活動展等々 評価: B	9日間の開催 来場者数: 1,653人 郷土かるた・伝統文化展では、各地区の伝統文化等それぞれの地域の魅力を紹介してきた。 ・かるた展(鹿嶋市郷土かるた、文化財愛護かるた、高松・豊津・鉢形・大野地区) ・伝統文化展(鹿島・平井・豊郷・波野・三笠・はまなす) 評価: A	(評価をふまえた改善点) 公民館では施設の利用制限を設けるなど、新型コロナウイルス感染症対策を行っている。コロナ禍の中でのイベントのため、密にならないような展示中心の事業内容とし、展示期間中には、展示物のガイドボランティアを依頼した。 評価: B	個別事業実績評価点: 39.5 【課題】 コロナ禍のなかでの文化交流フェスティバル開催の意義・目的を整理して、より多くの市民の皆様がオリンピックに関わり、活力あるまちづくり活動を推進し、オリンピックレガシーとなる事業を創出する。
②KASHIMAポストカードデザインコンテストの開催とポストカードの作成 【比率: 30%】	オリンピックサッカー競技大会に向けて、市民が来訪者へ鹿嶋市をPRする機会を提供し、鹿嶋市のイメージアップや魅力の再発見を図るための創作活動によって、芸術文化の継続的な発展を目指す。	鹿嶋をイメージできる「絵画」「写真」をポストカードサイズで表現する作品を公募する。応募作品の中から優秀作品をポストカードとして制作し、東京2020オリンピックサッカー競技鹿嶋市開催時、国内外からの来訪者に鹿嶋市を表現するおみやげとして配布する。	「あなたが伝えたい鹿嶋市の魅力」(例、風景、建物、歴史、行事等)をテーマにポストカードサイズの作品を募集し、審査を行い優秀作品を表彰。 評価: B	応募数 絵画: 28点 写真: 24点 審査: 最優秀賞2点 (絵画1点・写真1点) 優秀賞8点 (絵画4点・写真4点) ポストカード作成数: 絵画のセット 5,000セット 写真のセット 5,000セット 評価: B	(評価をふまえた改善点) 市民目線での「鹿嶋市の魅力」をポストカードという形で作成し、情報発信する手法は初めての試みであったが、オリンピック開催記念して市民によるオリンピックレガシー事業になったと考える。 評価: A	個別事業実績評価点: 22.65 【課題】 作成されたポストカードのオリンピック終了後の活用について、配布して終わりではなく、鹿嶋のお土産品のひとつとして頒布していくこと等、商工観光課と協議していく。
③各地区公民館オリパラブースの設置 【比率: 20%】	市民の皆様がオリンピック開催をより身近に感じていただくとともに、オリンピックを契機とした郷土の魅力を再発見する機会を提供する。	各地区公民館によるオリンピック機運醸成事業として館内にオリパラブースを設置する。	地区の特徴を生かしながら、地域の子どもや大人がアイデアを出しあって作成し、地域の皆さんのオリンピック成功を願う思いが込められたオリンピックブースができた。 評価: A	各地区公民館で、オリンピック開催までのカウントダウンイベントを掲げて、地域の皆さんの顔写真缶バッジを作成し応援してきた。缶バッジの取り組みに参加した市民の人数は、地区公民館と中央公民館合わせて約4000人以上が参加。 評価: A	(評価をふまえた改善点) 令和2年度については、缶バッジの作成は一時中断した。令和3年度になって、ようやく「開催まであと〇日」を100日前から再スタート。 評価: B	個別事業実績評価点: 17.9 【課題】 コロナ禍で、オリンピック開催市として、どのような形で応援し、地域にレガシーとして残せるかを検討していく。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	80.1	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 令和2年度において、新型コロナウイルス感染症対策を講じた形での展示物中心のイベント「2020 KASHIMA文化交流フェスティバル～魅力あふれるかしま展～」を開催した。プログラム内容は、鹿嶋市美術展覧会 会員特別展、郷土かるた・伝統文化展・伝統芸能・郷土展、なまず絵展、平成の大直刀展示、鹿嶋市文化協会 活動展 等々 9日間の開催で来場者数は1,653人					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	令和3年度はオリンピック開催年ではあるが、コロナ感染拡大の収束が見えない状況のため、昨年度と同様規模の事業となる。			
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 コロナ禍でも、あらためて鹿嶋市の魅力(鹿嶋の歴史や伝統文化の継承、芸術活動)を再確認し、オリンピック終了後も市民にとって住みやすく、誇れるまちづくりにつながっていくような、オリンピックレガシーの創出が課題である。					
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 コロナ禍で、観客のおもてなしが難しくなったが、鹿嶋市美術展覧会をはじめ、展示中心の事業内容とする。また、多くの市民がオリンピックを記念してオリンピック鹿嶋市開催の成功に関われるよう、各地区まちづくり委員会等各団体から協力をいただき、子どもたちが楽しめるプログラムやステージ発表も検討する。					

令和2年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 18

主要事業名	放課後子ども総合プランの推進					作成日	R3.5.20
						担当課名	社会教育課
						担当者名	野村 優
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定		建設事業	その他
						年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ	
基本方針	4 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	2 未来を創るひとづくり・まちづくり
体系項目	(2) 学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成	基本政策	3 子どもを生み育てやすいまち
個別施策	② 子どもたちの居場所づくり事業の実施	基本施策	3 子育て支援の充実

根拠法令等	鹿嶋市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱, 鹿嶋市放課後児童クラブ設置条例
-------	--

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	文部科学省及び厚生労働省による連携のもと、平成19年度から総合的な放課後児童対策として「放課後子どもプラン事業」が開始した。平成26年度には「放課後子ども総合プラン」に改められ、両事業を一体的に又は連携して実施することを目標に計画的な整備を進めてきた。 しかし、近年の女性就業率の上昇等により、更なる共働き家庭等の児童数増加が見込まれており、放課後児童クラブ及び放課後子供教室の連携を前提とした追加整備が不可欠となることから、平成30年度に「新・放課後子ども総合プラン」が策定された。
------------	---

目的（事業の目指すところ）	次代を担う人材を育成するため、すべての児童を対象に、体験活動・交流活動等を実施する放課後子ども教室と、留守家庭の児童を対象に生活の場を提供する放課後児童クラブを一体的又は連携して実施する総合的な放課後対策を目的とする。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 『鹿嶋市放課後子ども総合プラン運営委員会』を開催し、地域及び学校の情報を共有するとともに、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の方針について協議する。 余裕教室の活用及び学校施設の一時的な利用に向けて各小学校との協議を進める。 各事業における参加児童の安全確保のため、参加児童の状況を把握し、指導員の配置等関係機関と協議する。 放課後子ども教室において、多様な学習、体験プログラムの充実を図る。
------------	--

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p><国の動向> 全ての児童の安全・安心な居場所を確保するため、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進めることを推進している。</p> <p><県の動向> 地域の実情に応じた研修計画の策定、教育委員会と福祉部局の具体的な連携に関する方策及び特別な配慮を必要とする児童への対応に関する方策を検討している。</p>
--------------------------	--

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R2年度 (実績)	R3年度 (予定・見込)	R4年度 (予定・見込)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)
		放課後児童クラブ利用者数（待機児童数）	人	953 (0)	1,129 (0)	1,185 (0)	1,197 (0)
	放課後子ども教室（平日）利用者数	人	259	273	300	300	300

投入コスト	全体計画		R2年度 (決算額：千円)	R3年度 (予算額：千円)	R4年度 (計画額：千円)	R5年度 (計画額：千円)	R6年度 (計画額：千円)
	事業経費	放課後児童クラブ（運営委託料）		193,229	226,960	226,960	226,960
	（運営委託料のうち人件費）		164,834	172,970	172,970	172,970	172,970
	放課後児童クラブ運営委託料以外の経費		14,447	10,504	10,504	10,504	10,504
	放課後子ども教室・平日（運営委託料）		11,402	11,628	11,628	11,628	11,628
	放課後子ども教室・平日運営委託料以外の経費		400	433	433	433	433
	放課後子ども教室・休日（運営委託料）		1,300	1,550	1,550	1,550	1,550
	放課後子ども総合プラン運営委員会		101	167	167	167	167
	合計		220,879	251,242	251,242	251,242	251,242
財源内訳	国県支出金		99,227	119,797	119,797	119,797	119,797
	地方債						
	その他（参加者負担金）		43,842	55,712	55,712	55,712	55,712
	一般財源		77,810	75,733	75,733	75,733	75,733
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		2	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		2	1	1	1	1

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①放課後子ども教室事業(平日) 【比率: 20%】	放課後に学習や創作活動、地域の人たちとの交流など、さまざまな体験活動とおして、社会性、知力の向上などを図ること、また、下校時の安全を確保するため、小学校1~3年生を対象に放課後子ども教室を開催する。 ・放課後子ども教室(平日) 10教室(10小学校)	対象児童を高学年が下校する時刻まで、または保護者迎えまで預かることで、児童の安全・安心な居場所を確保する。 ・入会希望者すべての受入 ・運営委託契約 NPO法人 2社 社会福祉法人 3社	放課後子ども教室を委託事業として5団体と契約し、事業を実施した。 ・放課後子ども教室(平日) 10教室(10小学校)	放課後子ども教室(平日)の利用によって、低学年のみの下校児童を減少させることができた。 ・利用者数: 259人(前年度: 295人)(前年度比: 88.8%) ※新型コロナウイルスの影響により利用者は減少。	(評価をふまえた改善点) 放課後子ども教室(平日)の運営を円滑にするため、委託先及び学校との連携に努めた。また各校月に2回訪問し、運営状況を確認した。	個別事業実績評価点: 13 【課題】放課後児童クラブとの一体的な運営が求められているが、実施場所が異なり連携が難しい。また、未実施である2校の開設が課題となる。
②放課後子ども教室事業(休日) 【比率: 20%】	小学校1~6年生を対象に地域の方の参画を得て交流活動等の機会を提供することで、地域の人との関わりの中から社会性を得ること、また、地域全体で子どもを育てていくことを目的に、休日子ども教室を実施する。 ・休日子ども教室(10箇所)	休日の様々な体験活動や地域住民との交流活動により、児童の社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を育成する。 ・運営委託契約 まちづくり委員会 10地区	放課後子ども教室の休日版を委託事業として10団体と契約し、事業を実施した。 ・休日子ども教室(10箇所) 開催回数 54回 ※各地区まちづくりセンターで実施した。	休日子ども教室では、地域の歴史を学んだり、お祭りに参加するなど、地域の特色に合わせた活動に児童が参加し、豊かな人間性を育てることができた。 ・利用者数: 1,183人(前年度: 2,347人)(前年度比: 50.4%) ・開催回数: 54回(前年度: 71回)(前年度比: 76.1%) ※新型コロナウイルスの影響により利用者は減少。	(評価をふまえた改善点) 休日子ども教室の運営を円滑にするため、委託先との連携に努めた。また、次年度に向けた取り組みについても関係機関と協議をした。	個別事業実績評価点: 13 【課題】放課後児童クラブとの一体的な運営を図るための仕組みづくりが課題となる。
③放課後児童クラブ事業 【比率: 60%】	放課後や長期休業中に、保護者が子どもを安心して預けられる適切な居場所づくりを確保するための環境整備をおこなう。また、利用者増加のため、募集をおこなう。 ・児童クラブの環境整備 ・ニーズに応じたクラブの増設 ・募集に関する周知 広報かしま、鹿嶋市HP及びかしま子育てねっと	児童クラブ入会希望者すべての受入をおこない、保護者が仕事などで昼間家庭にいない小学生児童の適切な遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。 ・入会希望者すべての受入 ・運営委託契約 NPO法人 2社 社会福祉法人 3社	・児童クラブを2クラブ増設することにより、待機児童の解消につながり、保護者が安心して子どもを預けられる環境整備ができた。 令和元年度 33クラブ ⇒令和2年度 35クラブ ・広報かしま、鹿嶋市HP及びかしま子育てねっとにおいて、通年及び夏休み利用の募集告知を実施した。	児童クラブ入会希望者すべての受入をおこない、児童の適切な遊びや生活の場を提供することで、児童の健全な育成を図ることができた。 ・定員: 1,336人(前年度: 1,304人)(前年度比: 102.5%) ・利用者数: 953人(前年度: 992人)(前年度比: 96.1%)	(評価をふまえた改善点) 委託先への聞き取りにより、令和2年度のニーズを把握し、学校施設の使用計画や活用状況等についての協議などをおこない、適切な体制づくりに努めた。	個別事業実績評価点: 60 【課題】年々高まるニーズに対応するための、受入場所の確保が課題となっている。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	86.0	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業を実施した。放課後児童クラブについては、保護者ニーズに対応し、2クラブ増設しての実施となった。また、小学校が休校となっていた期間については、午前中から放課後児童クラブを開設し、利用を必要とする児童全員の受け入れをおこない、年度を通して待機児童ゼロを実現した。児童が放課後等を安全・安心に過ごすことができる居場所づくり、児童の多様な体験活動及び地域住民との関わり合いなど、総合的な放課後対策を実施することができた。						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	充実	理由	保護者のニーズに応じた、放課後等に安心して子どもを預けられる環境づくりが求められている。また、年々増加する利用希望者に対応するためにも、受入体制の充実を図る必要がある。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 放課後児童クラブにおいて、年々増加する利用希望者を受け入れていくためにはクラブ増設が必要となるが、場所の確保が困難な状況である。現状で放課後子ども教室や放課後児童クラブで使用している教室も、学級編成によっては教室不足により調整が必要となっている。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 放課後子ども教室及び放課後児童クラブの教室確保について、余裕教室や特別教室だけでは受け入れしきれない場合には、一般の普通教室の活用を視野に入れて対応していく。						

令和2年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 19

主要事業名	地区公民館におけるまちづくり事業の充実					作成日	R3.5.21
						担当課名	中央公民館
						担当者名	増田由紀子
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費	
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	建設事業	その他	
					年度から	年度まで	

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ	
基本方針	4 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	4 市民と共に創るまちづくり
体系項目	(2) 学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成	基本政策	9 地域が結び、笑顔あふれるまち
個別施策	① まちづくり委員会活動の支援 他	基本施策	2 コミュニティ活動の活性化
根拠法令等			

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	地域における公民館事業（まちづくり事業）を、各地区まちづくり委員会に委託することで、地域住民が求める地域活動を、自ら企画・運営する主体的な活動が実践されています。また、各地区まちづくり委員会委員と公民館職員で組織する「まちづくり連絡協議会」において、地区まちづくり委員会同士での情報交換や各種研修会の実施など、共創のまちづくりの推進に向けた取り組みを実践しています。
目的（事業の目指すところ）	市民一人ひとりが主体的な学習活動を展開し、学びの成果を生かした地域活動・まちづくり活動が活発に行われる持続可能な地域社会が形成されます。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力や地域資源を活用した学習機会の提供及び地域住民の学習拠点としての公民館活動 各種事業（イベント等）を活用した地域の連帯感を育む機会の提供 自治会や子ども会、シニアクラブなどの地縁団体や様々な市民活動団体に対する支援・連携事業
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p>○人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（中教審） <地域における社会教育の目指すもの></p> <ol style="list-style-type: none"> 地域における社会教育の意義と果たすべき役割 ～「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～ 新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～ <「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策> <ol style="list-style-type: none"> 学びへの参加のきっかけづくりの推進 多様な主体との連携・協働の推進 多様な人材の幅広い活躍の促進 社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R2年度 (実績)	R3年度 (予定・見込)	R4年度 (予定・見込)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)
		地区公民館利用者数	人	102,966	104,000	156,000	252,000
	研修会等の機会	回	42	42	42	42	42

投入コスト	全体計画		R2年度 (決算額：千円)	R3年度 (予算額：千円)	R4年度 (計画額：千円)	R5年度 (計画額：千円)	R6年度 (計画額：千円)
	事業経費	地区まちづくり事業委託		8,103	10,400	10,400	10,400
	まちづくり支援事業委託		2,980	1,780	1,080	1,080	1,080
	・まちづくり研修会等事業		(100)	(230)	(230)	(230)	(230)
	・特色ある地域づくり事業		(600)	(600)	(600)	(600)	(600)
	・地域活動学習会(コミュニティ)事業		(830)	(700)	0	0	0
	・カピタリおもてなし事業		(1200)	0	0	0	0
	まちづくり活動調査・研究事業		(250)	(250)	(250)	(250)	(250)
	まちづくり市民大会事業委託		450	450	450	450	450
	合計		11,533	12,630	11,930	11,930	11,930
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		11,533	12,630	11,930	11,930	11,930
従事職員数	正規職員(フルタイム勤務者)		5	5	6	7	8
	その他職員(再任用(短), 嘱託職員等)		5	4	5	5	4

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①まちづくり事業(研修会、講座、市民大会)の開催と地域コミュニティプラン学習会の開催 【比率: 60%】	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり活動や地域づくり活動、公民館の運営情報等を共有し、地域課題に対し、研究調査等を推進する組織を設置する。 まちづくり研修会、まちづくり講座等での学びの成果を発表するとともに、多くの市民と情報を共有し、今後の市民活動の方向性を示すための大会の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり連絡協議会の設置。 まちづくり活動関係者及び公民館職員の研修会の開催。 地域の現状や課題を取り上げ、解決を図るためにまちづくり講座を開催。 まちづくり市民大会の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり連絡協議会 まちづくり委員会委員(10地区)、公民館職員(11館) まちづくり講座開催 12地区×2回(リモート形式) 鹿嶋市公民館研究集会開催1回(リモート形式) 令和元年~2年度地域コミュニティプランの作成に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり連絡協議会の設置により、共通の地域課題に対して、各地区が課題解決に向けた取り組みを推進することができた。 まちづくり講座を12地区で開催。(4地区はコロナ禍で中止)参加者:前期105人、後期71人 鹿嶋市公民館研究集会開催参加者:58人(各地区の代表者) 	<ul style="list-style-type: none"> (評価をふまえた改善点) 地域の情報や現状を把握するとともに、様々な分野の市民団体が連携・運動できるように、活動とネットワークの在り方について情報共有し、地域の将来像について協議していくことができた。 令和元年度~2年度にかけて「地域コミュニティプラン」を作成。 	個別事業実績評価点: 45.3 [課題] 2年間にわたり地域の将来像について、地区ごとに情報の共有を図ってきた。今後は、コミュニティプランを活用し、「公民館を核にした共創のまちづくり」を推進するため、市民組織体制と活動のあり方、市民の学習と活動を支援する公民館の役割等について検討する。
②公民館事業(公民館まつり、住民体育祭等)の開催 【比率: 10%】	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情を反映した地域の課題解決に向けた取り組みを地区まちづくり委員会が主体となり、企画・運営し、各種事業をとおして住民の絆づくりのための事業や公益的なまちづくり事業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が主体的に取り組むまちづくり事業の企画・運営に必要な会議、研修会の開催。 地域の課題解決に向けた取り組み、地域の絆づくり事業、公益的なまちづくり事業の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 各地区まちづくり委員会と委託契約を締結。 各地区まちづくり委員会本部役員会、専門部会議を開催。 まちづくりだよりを年4回発行。 公民館まつりなど、公益的なまちづくり事業を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情、特色を生かした地域づくり事業が行われた。 地域住民の日頃の活動成果を生かすための場を提供することができた。 公民館利用者/地区人口 102,966人/67,001人(1.5回) R1年度235,991人(3.5回) H30年度258,812人(4.2回) 	<ul style="list-style-type: none"> (評価をふまえた改善点) コロナ禍のため、地域の絆づくりを目的とした様々な事業や講座などが中止や延期となったが、地域住民が参加できる催しに感染対策を講じながら事業内容を工夫して開催することができた。 	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] コロナウイルス感染予防対策を講じつつ、公民館を地域活動の拠点として、コミュニティ意識の希薄化、地域役員等の担い手不足など、地域の課題やニーズに対応した活動を各種団体等と連携して、地域の絆を生かした地域づくり活動に取り組む必要がある。
③特色ある地域づくり事業(モデル事業)の実施 【比率: 10%】	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり研修会やまちづくり講座、まちづくり市民大会において学習した成果を地域に還元するための取り組みをモデル事業として3年間支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の成果を地域に還元していく活動をとおして、地域課題解決に向けた地域の特色を生かした取り組みの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> H30年度~子どもの居場所づくり事業(平井・三笠地区) R元年度~オリ・パラレガシー事業(全地区対象) R2年度~コミュニティプラン推進モデル事業(波野・豊郷地区) 	<ul style="list-style-type: none"> フラーアレンジメント教室(2回・60人) 長期休業中の学習支援 写真を活用した地域の再発見 「波野の宝スポットマップ」の修正・「宝の説明看板」の設置 高齢者にやさしいまちづくり事業等 	<ul style="list-style-type: none"> (評価をふまえた改善点) 今後は今まで以上に学校、家庭、地域との連帯感を深め、地域住民と協働し地域づくり活動に取り組んでいく必要がある。モデル事業に取り組むことで、地域課題解決に向けて、様々な市民活動団体と連携した活動の実践が行われた。 	個別事業実績評価点: 7.55 [課題] H30年度から、学びの成果を生かした取り組みが行われてきたが、平井、三笠地区において、R2年度をもってモデル事業の支援が終了する。事業の成果を地区まちづくり委員会において評価し、今後の取り組みを検討していく必要がある。
④職員の階層別研修・情報交換会の実施 【比率: 20%】	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり活動や地域づくり活動、公民館の運営情報等を共有し、課題に対し研究調査等を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> センター長(公民館長)会議 地域活動支援会議の開催 公民館主事研修会の開催 茨城県主催研修会への参加 全国公民館研究集会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> センター長会議9回 地域活動支援会議11回 鹿嶋市立公民館職員全体研修会1回 新任公民館主事研修会1回 	<ul style="list-style-type: none"> センター長会議、地域活動支援会議の開催により、各地区で開催されるまちづくり事業、地域活動等についての情報交換、コロナウイルス感染予防対策など連絡調整を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> (評価をふまえた改善点) 公民館主事研修会においては、地域活動を支える公民館主事のスキル向上のための重要な機会であり、研修の成果として、各種全国表彰の受賞に繋がっている。 	個別事業実績評価点: 13 [課題] 令和2年度から公民館長及び公民館主事が会計年度任用職員に変わり、地域から求められる公民館職員として期待に応えられるようさらなるスキルの向上が求められている。

5 総合評価結果に基づく対応(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	72.4	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 ・コロナ禍においても、地区別にまちづくり講座、公民館研究集会をリモートで開催するによって、住みよい地域づくりを推進していくためのコミュニティ活動の重要性を再確認し、活動全体の見える化とネットワーク型コミュニティの必要性について、情報を共有するための取り組みが行われた。 ・各地区まちづくり委員会では、地域住民が主体的に地域づくりやまちづくり事業を実施し、地域コミュニティの形成、地域の絆づくり、地域の連帯感を育む取り組みが行われた。							
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	共創のまちづくりを推進し、まちづくり活動の充実を図るためには、継続した支援が必要である。あらためて安全・安心な暮らしと住みよい地域づくりを推進していくために、各地区の魅力や課題を点検し、持続可能な地域づくりを進めていくことが必要である。					
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 コミュニティプランを活用し、社会の変化に対応した地域コミュニティの創造を目指す「公民館を核にした共創のまちづくり」を推進するため、コミュニティプランを推進する市民組織体制と活動のあり方、市民の学習と活動を支援する公民館の役割等について検討する。							
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 令和3年度において地区別学習会に取り組み、コミュニティプランを推進する市民組織体制と活動のあり方、市民の学習と活動を支援する公民館の役割等、令和4年度からの新たな組織体制作りに向けて基本的な方針、考え方をまとめる機会とする。							

令和2年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 20①

主要事業名	文化芸術の振興（文化財・伝統文化の普及活動）					作成日	R3.5.19
						担当課名	社会教育課
						担当者名	横田 侑一郎
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 （義務）	○	自治事務 （任意）	○	市民サービス 建設事業	管理経費 その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し	○	期間限定	年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり	
体系項目	(3)	生きがいつくりにつながる文化的活動の促進		基本政策	5	学び・楽しみ，地域がつながるまち	
個別施策	②	生涯学習活動の団体の支援・育成		基本施策	3	芸術活動の活性化	

根拠法令等	鹿嶋市社会教育推進計画
-------	-------------

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	文化芸術は，人々が心豊かな生活を実現していく上で不可欠なもので，何物にも代え難い心のよりどころである。市民の文化芸術活動をさらに活性化するためには，市民一人ひとりが創造力を発揮し文化芸術を楽しめる環境を整え，継続的に支援していくことが求められている。
------------	---

目的（事業の目指すところ）	市民が地域に根付いた祭りや踊り，文化財等に触れることができる機会を創出することで，文化芸術の振興を図る。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 市内各施設（勤労文化会館，各公民館など）での文化芸術に関わる事業について新型コロナウイルス感染症の対策を十分に行い，事業を実施していく。 文化芸術を振興する団体（文化協会，文化スポーツ振興事業団など）への支援を行い，密に連携を取り，文化芸術に関わる事業を展開する。 各種イベントにおける市民音頭や郷土かるた等の普及活動を実施する。
------------	---

国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等	東京オリンピック・パラリンピック競技大会はスポーツの祭典であると同時に文化の祭典であり，我が国の文化芸術の価値を世界へ発信する大きな機会であるとともに，文化芸術による新たな価値の創出を広く示していく好機である。（平成30年 文化芸術推進基本計画第1期答申：文化審議会）
--------------------------	--

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	R2年度 （実績）	R3年度 （予定・見込）	R4年度 （予定・見込）	R5年度 （予定・見込）	R6年度 （予定・見込）
		鹿嶋市郷土かるたの累計販売数	個	199	250	270	290
	発掘体験における体験者数	人	90	100	110	120	130

投入コスト	全体計画		R2年度 （決算額：千円）	R3年度 （予算額：千円）	R4年度 （計画額：千円）	R5年度 （計画額：千円）	R6年度 （計画額：千円）
	事業経費	文化芸術普及活動への謝礼		60	100	100	100
	文化振興事業補助金（文化協会）		330	400	400	400	400
	文スポ事業団運営補助金		23,393	23,433	23,433	23,433	23,433
	文スポ事業団文化事業補助金		1,000	1,500	1,000	1,000	1,000
	合計		24,783	25,433	24,933	24,933	24,933
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他（参加者負担金）						
	一般財源		24,783	25,433	24,933	24,933	24,933
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		3	3	3	3	3
	その他職員（再任用（短），嘱託職員等）						

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①文化芸術の普及活動 【比率: 30%】	・「鹿嶋市郷土かるた」の展示や「絵巻」、「平成の大直刀」を紹介し、市民に対し鹿嶋市の伝統文化に触れる機会を創出するとともに、市民音頭の普及も図る。	・2020KASHIMA文化交流フェスティバルの来場者数 ・市民音頭普及活動数	・2020KASHIMA文化交流フェスティバル内において、今年度作成した「鹿嶋市郷土かるた」等の展示ブースを設け、市民への周知を実施した。	・2020KASHIMA文化交流フェスティバルの来場者数1,653名(9日間) ・2020KASHIMA文化交流フェスティバル中の鹿嶋市郷土かるたの販売(23個販売) ・市民音頭の普及活動は、各種イベントが中止になったため実施できなかった。	(評価をふまえた改善点) 感染症対策を十分に行い事業を実施した。「鹿嶋市郷土かるた」及び「文化財愛護かるた」の各札をパネル化し展示することで、見やすい展示ブースの作成、合併後の鹿嶋市の変容が「かるた」を通じて学習できるよう工夫をした。	個別事業実績評価点: 25.8 [課題] 来場者の多くは高齢者または親子であり、小中学生はほとんど見られなかったため周知方法の見直しが必要。また、今後市内のイベントで、かるたの周知や販売を行うため担当課や関係機関と協議していく。コロナ禍での市民音頭の普及活動。
②歴史文化に触れる機会の創出 【比率: 30%】	文化財に触れることで、鹿嶋市の文化財の価値や伝統の価値を認識する機会を創出する。	・令和2年度鹿嶋市まちづくり市民センターまつりの来場者数 ・発掘体験者数	まちづくり市民センター祭で、発掘体験ができるブースを設けた。体験者へ、掘り起こした土器と土器の名称等が記載されたカードを配布し、文化財への理解を深めてもらえるよう工夫をした。	・令和2年度鹿嶋市まちづくり市民センター祭の来場者数1,481名 ・発掘体験者数90名	(評価をふまえた改善点) 配布したカードに土器の名称や時代、鹿嶋市ときどきセンターの紹介文を掲載することで、体験者に文化財への理解を深めてもらうとともに、郷土の歴史に興味を持ってもらえるよう工夫をした。	個別事業実績評価点: 30 [課題] 発掘体験に混入させる遺物(土器等)の数を増やし、より多くの来場者が体験できるよう準備を行う必要がある。
③文化芸術振興団体の支援、育成 【比率: 20%】	・鹿嶋市文化協会、鹿嶋市文化スポーツ振興事業団に対して、補助金を交付し、適宜連絡をとり、支援や育成を図る。	・鹿嶋市文化協会の会員数、事業の実施数 ・鹿嶋市文化スポーツ振興事業団の実施事業数	各団体への補助金の交付、適宜各団体との連絡調整を実施、各事業に伴う会議への出席	文化協会会員数822人(前年比55名減) 文化協会事業数2 文化スポーツ振興事業団事業数4	(評価をふまえた改善点) 各事業の実施にあたり、感染症対策について適宜協議し、対策を行った。	個別事業実績評価点: 13 [課題] 文化協会の会員の高齢化が顕著であるので、新たな人材発掘が課題である。
④公民館の状況調査 【比率: 20%】	・生涯学習推進体制等整備状況調査を実施し、各公民館の利用状況を把握し、より良い市民サービスの提供を図る。	・各公民館の利用者数	生涯学習推進体制等整備状況調査の実施。 調査結果に基づき、他市町村との比較検討を実施	各公民館の年間利用者数109,152人	(評価をふまえた改善点) 調査依頼については、回答しやすいよう説明方法を工夫した。	個別事業実績評価点: 13 [課題] 市民が利用しやすい施設となるように、各公民館と密に連携を図る。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	81.8	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 感染症対策を十分に行い、本事業を実施することができた。市民が来場するイベントで「鹿嶋市郷土かるた」の周知を行うことで、販売実績の向上につながった。発掘体験においては、午前中に用意した土器がなくなるほどの反響ぶり、市民(主に幼稚園児、保育園児、小学生)に対して文化財に触れる機会を提供することができた。また、発掘体験では、掘り起こした土器の紹介とときどきセンターの紹介文もカードに盛り込み体験者へ配布することで、鹿嶋の歴史に対して興味を持ってもらえるよう工夫をし、施設の周知も併せて実施できた。公民館の状況調査については、年間利用者数や利用団体数等の状況を把握した。					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	伝統文化に触れる機会が減っているため、発掘体験や郷土かるた等による機会提供が必要である。			
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・コロナ禍で、文化財や伝統等に触れる機会が著しく減少している中、感染症対策を実施しながら、市の文化財や伝統等の価値を十分に認識するための機会を創出していく必要がある。 ・文化協会の会員数の減少や高齢化に伴い、事務局が機能しなくなってしまう可能性があるため、新規人材の発掘が必要である。 ・今後の市内のイベント等の開催状況では、市民音頭等の普及活動を実施することが難しくなってしまう。					
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、対策を講じて、文化財や伝統文化に触れる機会を創出する。 ・文化協会の新規会員増に向け、市ホームページ等を活用し、会員募集の周知を行う。 ・文化芸術の普及活動については、今後の市内のイベントで、かるたの周知や販売を行うため担当課や関係機関と協議していく。					

令和2年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 20②

主要事業名	文化芸術の振興（市民団体の文化活動）					作成日	R3.5.21	
						担当課名	中央公民館	
						担当者名	立原 由樹菜	
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)		自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	その他
							年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり
体系項目	(3)	生きがいがづくりにつながる文化的活動の促進	基本政策	5	学び・楽しみ，地域がつながるまち
個別施策	①	芸術祭・市美術展等の発表の場の拡充	基本施策	3	芸術文化の活性化
根拠法令等					

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	コロナ禍でも，市民の日頃の芸術・文化創作活動の成果を発表する機会を提供するとともに，鹿嶋市の芸術・文化の学習機会の提供するため，令和2年度は公募展としての展覧会は中止し，鹿嶋市美術展覧会会員と昨年度入賞者の秀作を展示する「鹿嶋市美術展覧会 会員特別展」として開催しました。
目的（事業の目指すところ）	市民の芸術・文化活動に関する関心を高め，意欲的な創作活動を促し，地域文化を育みます。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 市民が気軽に多様な芸術・文化とふれ合い，また自分の創作作品を発表する機会の充実を図るとともに，文化活動とおした市民間交流の場の提供に努めます。 芸術文化活動を活用した東京2020大会開催に向けた市民の機運の醸成を図ります。 芸術・文化団体間の連携を図り，団体活動の活性化を図れるよう支援します。
国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等	市民や関連団体と共創することで，更なる芸術・文化活動の充実を図るとともに，幅広い分野の文化活動を行うことができる施設の充実などが求められています。

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	R2年度 (実績)	R3年度 (予定・見込)	R4年度 (予定・見込)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)
		市美術展出品者	点	80	200	202	204
	鑑賞者数	人	1,653	1,500	1,080	1,100	1,120

投入コスト	全体計画		R2年度 (決算額：千円)	R3年度 (予算額：千円)	R4年度 (計画額：千円)	R5年度 (計画額：千円)	R6年度 (計画額：千円)
	事業経費	市美術展覧会		400	500	400	400
て～ら祭			500	500	500	500	500
合計			900	1,000	900	900	900
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		900	1,000	900	900	900
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		5	5	5	6	8
	その他職員（再任用（短），嘱託職員等）		5	5	5	5	5

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①文化事業の開催 (市美術展覧会) 【比率: 60%】	鹿嶋市美術展覧会会員特別展の開催 会期:7月24日(金)~8月2日(日) 会場:まちづくり市民センター1階・2階フロア ・鹿嶋市文化協会に美術展覧会運営委託契約を締結する。 ・運営委員会の設置 ・出品協力を依頼する方の中から展覧会委員を選出し、展示・受付等協力していただく。 ・広報(周知)については、新聞社等や広報紙を活用し、周知を図る。	鹿嶋市美術展覧会会員特別展における、出品点数70点、鑑賞者数1,000人を目指す。	・運営委員会開催 3回 ・出品依頼の送付 ・作品搬入・展示 ・市美展会期 ・作品搬出 ・広報周知活動 広報かしま/市民センターホームページ/市民センター広報紙(全戸配布)/FMかしま/かしま/茨城新聞掲載(7月25日) ・出品者へ展覧会周知用ポストカード配布 評価: B	・出品点数:80点 絵画:26点 書:20点 写真:19点 工芸:15点 ・鑑賞者数:1,653人 ・運営委員会委員8人、展覧会委員35人の協力を得て事業を円滑に実施することができた。 評価: B	(評価をふまえた改善点) 運営委員会を組織・運営を行い、令和2年度美術展の開催内容の検討をし、新型コロナウイルス禍である状況を踏まえ、「鹿嶋市美術展覧会 会員特別展」として市美展会員と前年度入賞者による展覧会を開催した。出品者の中から展覧会委員を組織し、作品の搬入、展示レイアウト、搬出に至るまで出品者と協力して開催することができた。	個別事業実績評価点: 45.3 [課題] 毎年課題となっている新しい作家の発掘・育成及び若い世代(高校生等)の出品については、今後も幅広く周知し、市内高等学校においては、引き続き学校を訪問し参加協力を呼び掛けていく。
②まちづくり市民センターまつり(て〜ら祭)の開催 【比率: 40%】	て〜ら祭を開催し、まちづくり市民センターを拠点に活動する市民活動団体による活動内容の発表展示をとおして、出会いと交流の機会とする。 会期:11月8日(日) ・令和2年度鹿嶋市まちづくり市民センターまつり実行委員会の設置 ・実行委員会の開催 実行委員には、鹿嶋市まちづくり市民センターに事務所を置く団体、スポーツ関係団体をもって組織	て〜ら祭の来場者数1,000人を目指す。	・実行委員会 3回開催 ・全体打合せ ・て〜ら祭開催 ・広報周知活動 広報かしま/市民センターホームページ/かしま/市民センター広報紙(全戸配布)/FMかしま 評価: B	・市民活動団体による活動展示、ワークショップ、市民センターで活動する団体によるステージ発表。 ・来場者数:1,481人 ・参加団体、内容等 <屋外>5団体:小物販売や射的、土器発掘体験等 <屋内>11団体:子ども遊び広場、歴史講演、民族打楽器体験等 <ステージ発表>10団体:ギターやオカリナ、ダンス等 評価: A	(評価をふまえた改善点) ・新型コロナウイルス感染症対策として、開催規模を縮小し、さらに出入口3カ所に受付テントを設置し感染対策に努めた。 ・コロナ禍においても、市民活動団体や、市民センターで活動する団体が日々の活動を発表し、また、学び合う機会を提供することで、市民同士のつながりとなる場を創出することができた。	個別事業実績評価点: 31.6 [課題] 令和3年度の事業については、開催日数や開催規模などを新型コロナウイルス感染症拡大状況により事業内容を検討する必要がある。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	76.9	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 市美術展覧会や各種芸術文化事業を開催し、発表の場を創出することが、市内芸術家の創作活動への意欲を増進させる機会となった。また、気軽に芸術文化を親しむ機会を創出することができている。継続的な課題(若手芸術家の発掘)については、市内高等学校へ訪問し、市文化事業に関する情報提供(周知・広報活動)を行った。						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	令和2年度は審査を行わない展覧会を行ったが、令和3年度は市内の芸術家の創作意欲を高める機会として、実施内容を検討しながら審査を行う展覧会を開催するため。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 市美術展覧会は継続的な課題ではあるが、文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり、芸術文化活動を行う新しい人材の掘り起こしや後継者の育成など、市の芸術文化活動の活性化を図る取り組みを市文化協会と芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携して新たな取り組みを進めていく必要がある。て〜ら祭についても、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら、事業内容を検討していく必要がある。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 若い世代への広報活動を継続していくとともに、幅広い世代が芸術文化活動に参加できる取り組みを文化協会と検討していく必要がある。令和3年度は、芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携し、新たな芸術活動の担い手の育成に向けた取り組みとして、文化庁の「伝統文化親子教室事業」を活用し、「鹿嶋市伝統文化親子体験教室(華道・茶道)」を行う。						